

飯田線落石衝突事故で業務委員会！

落ちた石の対策は先送りにされていた！

本部は3月8日、1月25日に発生した飯田線、三河榎原駅～湯谷温泉駅間での落石衝突事故について業務委員会を開催しました。

会社は、落石の原因について「岩の割れ目部分に樹木、根等からの水が滲入し凍結、溶解を繰り返し割れ目が広がり落石したものと推測する」としています。しかし会社の説明から、当該の岩は平成23年度初の調査で発見されていながらも、「至急な対策は必要ない」としてその対策を先送りにしていたことがわかりました。

今回の事故では、幸いにも乗務員、乗客に怪我はなく脱線することはありませんでしたが、過去には落石に列車が衝突し、死傷者が出る事故も起こっています。

本部は会社に対して、二度と落石事故を発生させないために落石の恐れのある岩や石の調査や、巡回の頻度を高めること。また落石の恐れのある岩や石を発見したときは直ちに対策をとるよう、強く求めました。

しかし、会社は「現在の調査方法、対策で十分である」の一边倒で、労働組合からのアドバイスに対して全く耳を貸さない態度に終始しました。挙げ句の果てには「労働組合と議論したことを持って対策が決まるわけではない」と労働組合を軽視する発言までも行ってきました。

また、事故列車を救援する際に伝令法による運転を行いました。必要となる輸送責任者の資格を持った社員が、近隣では豊橋駅にしかいないことも明らかになり、効率化が事故復旧に影響を与えていることも浮き彫りになりました。

こうした会社の姿勢、「命令と服従」の関係を貫いているからこそ、安全対策が先送りにされ、今回のような落石事故が発生したのです。会社は今一度、これまでの姿勢を考え直し、安全対策を作り直すべきです。

私たちは今回の事故に限らず、真の原因を究明し、安全で働きやすい職場をつくるために闘います。

二度と落石事故を起こさないために！
会社は調査方法等安全対策を見直せ！